

新潟県立歴史博物館評価委員会

令和3年度における  
館の自己点検に対する  
二次点検評価報告書

令和4年8月



## 活 動 評 価 表 （総括）

### 博物館の基本理念

- 県民の営みの証である歴史資料を記録・整理・保存し、新たな歴史像※を県民とともに創造していきます。
- 人々と連携しながら、現在から未来へ、地域から世界へと県の価値を発信していくことを使命とします。

こうした活動を通して

『より県民に愛され、利用され、“にぎわいのある博物館”』を実現します。

※「新たな歴史像の創造」

博物館の活動を通じて再発見される新潟県の価値や魅力が、新潟県の歴史についての新鮮なイメージとして、県民の皆さん一人一人の中で実を結んでいくこと

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 利用者数 <span style="float: right;">(単位：人)</span>				
		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
		実績	実績	実績	実績
	① 利用者総数	109,847 (前計画期間平均) 102,822	106,489	164,566	97,274
	② 観覧者数	51,467 (前計画期間平均) 52,830	52,423	64,596	50,521
		令和 2 年度	令和 3 年度		
		実績	目標	実績	
	① 利用者総数	44,666	増加させる	<b>40,472</b>	
	② 観覧者数	40,843		<b>35,212</b>	
	○ [評価指標] 満足度				
		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
		実績	実績	実績	実績
	① 来館者満足度	97%	95%	98%	98%
	③ 企画展	91%	92%	95%	95%
	③講座等 講座・講演会 体験コーナー	94% 99%	96% 96%	93% 100%	95% 100%
④ 来館者対応	98%	99%	98%	99%	
	令和 2 年度	令和 3 年度			
	実績	目標	実績		
① 来館者満足度	95%	増加させる	<b>96%</b>		
② 企画展	95%		<b>91%</b>		
③講座等 講座・講演会 体験コーナー	99% 100%		<b>95% 100%</b>		
④ 来館者対応	-%		-		

<p>令和3年度</p>	<p>(1) <b>収集保管</b> 収蔵資料データ整理の推進、収蔵庫の良好な保存環境の継続  (2) <b>展示</b> [常設展] 展示環境の維持、ワンポイント解説ゲスト解説の実施  (9/3～16 臨時休館)  [企画展] 有料展覧会2回(「博覧会の世紀 1851-1970」、「日蓮聖人と法華文化」)  [テーマ展] 「四季の暮らし、小さなまつり-新潟県の年中行事-」「やきもの産地・新潟」  * 県予算の関係で企画展の回数を2回とし、常設展料金で観覧できる展示を2回開催した。(令和2年度は企画展3回と常設展料金で観覧可能展示1回)  (3) <b>調査研究</b> 外部研究費5件(ほかに研究分担者としての取得4件)  (4) <b>教育普及</b> 館内講座・出前講座の継続、体験活動の新プログラム2件導入、教育機関への周知活動の継続、館内ボランティアの人数増  (5) <b>連携</b> 地域史研究ネットワーク、友の会事業の着実な実施など  (6) <b>情報発信</b> 新聞雑誌等への露出増加、ホームページ及びSNS(フェイスブック、ツイッター、インスタグラム)による情報発信の継続  (7) <b>管理運営</b> 博物館運営方針(H29～R3)に基づいたPDCAの継続</p>
<p>計画期間全般(H29～R3)</p>	<p>(1) <b>収集保管</b> 収蔵資料データ整理の進展、収蔵庫の良好な保存環境の継続  (2) <b>展示</b> [常設展] 展示環境の維持、ワンポイント解説ゲスト解説の実施  [企画展] 有料展覧会R元年度まで4回実施、R2年度3回、R3年度2回  [その他] 移動展覧会、アカデミック・インターソップ研修成果を高校で展示  (3) <b>調査研究</b> 外部研究費平均6件(他に共同研究者、研究協力者としての取得平均4件強)  (4) <b>教育普及</b> 館内講座・出前講座の継続、オンラインツアー実施、体験活動の新プログラム平均2件導入、教育機関への周知活動の継続、館内ボランティア活動の活発化(期間中、中学生ボランティア実施、体験プログラム開発への参画など)、感染症対策を踏まえた教育普及活動の実施  (5) <b>連携</b> 社会福祉施設などとの新規連携、地域史研究ネットワーク、友の会事業の着実な充実 など  (6) <b>情報発信</b> 新聞雑誌等への露出増、ホームページ及びSNS(インスタグラムをH29年度から追加)による情報発信  (7) <b>管理運営</b> 博物館運営方針(H29～R3)に基づいたPDCAの継続</p>
<p>分析</p>	<p>(1) 利用者総数、観覧者数  ★観覧者数 常設展 R2: 24,088人→R3: 27,040人  企画展 R2: 16,755人→R3: 8,172人  企画展が前年度より1回減の2回となったりしたため、企画展観覧者数が大きく減少した。一方、常設展観覧者数については昨年度と同程度を維持しているが、コロナ以前と比べると大きく減少している。  (2) 新型コロナの影響でR2年度は学校団体来館者数が減少したが、R3年度はR元年度並の人数となった(R元: 約7,500人、R2: 約6,200人、R3: 約8,000人)。要因として、県内遠方からの学校団体来館や、中学校・高校の修学旅行(県外からの振替)による来館が増えたことがあげられる。  (3) 新型コロナ対策として、臨時休館(9/3～9/16)、企画展示室内への入場者数制限を実施する一方で、外部講師による企画展記念講演会をリモートで開催した。館内講座、体験コーナーなどのイベント中止や参加人数等の制限などにより、利用者数が大きく減少した。  (4) 満足度の評価指標は、各項目とも昨年並みを維持している。  (5) 新型コロナ禍にあつて、来館者数や館の活動に大きな影響があつた中、外部研究</p>

	費（科研費）取得件数の増、SNSフォロワーの着実な増加などが一定の成果として挙げられる。								
計画期間全般 (H29～R3)	(1)令和元年度までは利用者総数10万人、観覧者数5万人前後で前期間と同様であったが、最後の2カ年は新型コロナの影響を大きく受けた。 (2)満足度の評価指標は、90%以上を維持する項目が多い。 (3)取組実績のうち、外部研究費（科研費）新規取得、連携活動の活発化、情報発信の拡充強化などが一定の成果として挙げられる。								
課題	(1)企画展の展示方法・テーマ設定のさらなる工夫 (2)具体的な集客に向けた広報等への新たな取組 (3)調査研究活動の充実と県民還元の推進 (4)支援団体・協力者との一層の連携強化 (5)感染症対策と円滑な館活動の両立								
取組に対する全体的自己評価									
令和3年度	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>								
計画期間全般 (H29～R3)	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> <table border="1" style="float: right; margin-left: 20px;"> <tr> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>R2</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>B</td> </tr> </table>	H29	H30	R1	R2	B	A	B	B
H29	H30	R1	R2						
B	A	B	B						

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する全体的自己評価	
令和3年度	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>
計画期間全般 (H29～R3)	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	<p>令和3年度までの5カ年は、コロナ禍により館活動が大きく制限され、また来館行動も制限されたことから、利用者数や観覧者数においては厳しい結果となった。ただし、利用・観覧者の減少は確かであるものの、令和2年度より導入された新たな観覧料徴収方法（常設展と企画展が別料金）とそれにとりもなう観覧者数のカウント方法の変更や、予算削減に伴う年間企画展数の減少があったため、それ以前の実績と正確に比較することができないのが実情である。ゆえに評価委員会としてもその点で正確な評価が困難であることを、先ずお断りしておきたい。</p> <p>利用者の満足度が令和3年度を含めた期間を通じて比較的良好であることは評価に値する。とりわけこの5カ年中にはコロナ禍や、館運営費の大幅な削減に直面しつつも、そうした状況下でもできる新たな対応を模索し、迅速に実行に移す様子が多々見受けられた。常設展における感染症関連の展示コーナーの設置や、SNSの積極活用、県内学校の修学旅行の受け入れなどがその一例である。利用者全般の高評価は、職員のような努力の結果であろう。</p> <p>今後も感染症との共存を図りながらの活動となることが見込まれる。観覧料の実質値上げや年間企画展数の減少が、館の収集・保管や調査・研究活動</p>

	<p>の成果に県民が接する機会の減少につながらないか危惧される。令和2年度以降、企画展数の減少を補うべく、館藏品や借用品による自主企画、いわゆる「テーマ展示」が企画展示室にて開催されているが、担当学芸員の負担はかなり大きいようで、今後どこまで続けられるか懸念もある。</p> <p>両立の難しい課題が多い中ではあるが、本県の歴史文化の基幹的機関としての機能を維持発展させるには、まずは丁寧な議論が大切なのかもしれない。そこから新たなアイデアが生まれることを期待したい。</p>
--	--

## 活動評価表

機能・取組分野	収集・保管	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めるとともに、そのデータ化を推し進める。</li> <li>・良好な資料保存環境を維持する。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の収集の継続と収集資料の整理を推進する。</li> <li>・I P M（総合的有害生物管理）による環境管理を継続する。</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績

○ [評価指標] 収蔵資料目録の刊行準備

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実績	実績	実績	実績
1 目録	1	1	1
令和 2 年度	令和 3 年度		
実績	目標	実績	
1	1 目録	1	

○ [評価指標] データベース公開件数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実績	実績	実績	実績
—(新規)	1,500	2,617	337
令和 2 年度	令和 3 年度		
実績	目標	実績	
406	300 以上	456	

令和3年度

**収集**

- (1) 資料寄贈 18 件
- (2) 収蔵資料破損 なし
- (3) 収蔵品整理作業 継続

**保管**

- (1) 文化財害虫モニタリング測定 月 1 回
- (2) 殺・防虫消毒 展示室殺虫消毒 1 回、館内殺虫消毒 1 回、館外防虫施工 2 回、燻蒸室内燻蒸 4 回
- (3) 収蔵庫温湿度管理 通年
- (4) 空気環境管理 カビ等浮遊菌調査 3 回、イオンクロマトグラフ空気物質測定 1 回
- (5) 収蔵庫定期清掃及び資料点検 1 回
- (6) 収蔵庫定期点検 月 1 回
- (7) I P M 研修 4 回
- (8) 保管環境研修会参加 保存担当学芸員研修（上級）、文化財虫菌害防除作業に関する講習会、保存環境調査・管理に関する講習会（空気清浄化のための化学物質吸着剤—）参加

計画期間全般 (H29～R3)	<p><b>収集</b></p> <p>(1)資料寄贈 毎年度、相応の寄贈申込みがあり、基準に照らして受け入れている。  (2)収蔵資料破損 なし  (3)収蔵資料目録刊行 着実に作業を進めている。  (4)収蔵資料整理作業 毎年度の継続事業として実施  (5)データベースによる資料公開 着実に作業を進めている。</p> <p><b>保管</b></p> <p>(1)文化財害虫モニタリング測定 月1回を励行  (2)殺・防虫消毒 展示室殺虫消毒、館内殺虫消毒各1回、毎年度実施。館外防虫  施工、燻蒸室内燻蒸も、その時々状況に応じて実施している(毎年度複数回)。  (3)収蔵庫温湿度管理 通年実施  (4)空気環境管理 酸・アルカリ濃度測定(収蔵庫、企画展示室)、毎年度4回実  施。カビ等浮遊菌調査・イオンクロマトグラフ空気中物質測定を年1回実施  (5)収蔵庫定期清掃及び資料点検 毎年度実施  (6)収蔵庫定期点検 月1回を励行。  (7)IPM研修 複数回実施し、全職員の受講を課している。  (8)保管環境研修会参加 文化財IPMコーディネータ講習会、博物館・美術館等  保存担当学芸員研修などに参加。</p>								
	<p><b>分析</b></p> <p>令和3年度</p> <p>(1)保管環境はIPM、殺・防虫消毒、温湿度管理、空気環境管理、清掃、定期点  検をとおして概ね良好に維持され、全国規模の保管環境研修への館員参加によ  って、職員個々の技術の維持向上が図られている。  (2)資料整理員の減員により、入力作業ははかどっていない。</p> <p>計画期間全般 (H29～R3)</p> <p>(1)目録は毎年刊行できている。  (2)データベース入力は継続しており、公開件数も目標を達成している。  (3)異常発生対応マニュアルに基づき「異常発生記録簿」・「定期点検簿」への記載、  月1回の定期検査(目視確認)を継続。  (4)保管環境はIPM、殺・防虫消毒、温湿度管理、空気環境管理、清掃、定期点  検をとおして、概ね良好に維持されている。  (5)全国規模の保管環境研修への館員参加によって、職員個々の技術の維持向上を  はかっている。</p>								
課題	(1)資料整理、データ入力に係る人員の確保が課題である。								
取組に対する全体的自己評価									
令和3年度	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留								
計画期間全般 (H29～R3)	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない								
	<table border="1"> <tr> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>R2</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </table>	H29	H30	R1	R2	A	A	A	A
H29	H30	R1	R2						
A	A	A	A						

## II 評価委員会による検証・評価

取組に対する全体的評価

令和3年度	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留
計画期間全般 (H29～R3)	評価できる やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<p>評価指標は最近5ヵ年、2項目とも目標を継続的に達成しており、評価できる。</p> <p>近年、博物館は、資料のデジタル・アーカイブ化の促進が求められている。データベース公開は今後も計画的に進めてほしい。今後、資料の増加による収納の問題や、デジタルデータやこれまでにない素材の資料保存の問題が予想される。収集保存の専門職（アーキビスト）の育成も必要であろう。</p> <p>保存に関する点検、IPM研修等、様々な活動を行い、良好な保管環境を維持している。また、継続的に職員の知識向上を図っており、大いに評価できる。</p> <p>博物館の基本理念、収集方針にのっとりた上で、より積極的に資料を購入できることが望ましい。</p>

## 活動評価表

機能・取組分野	展示－常設展示	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。</li> <li>・常設展示の十分な活用を推し進める。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の適切な維持管理と定期的な資料更新を継続する。</li> <li>・より柔軟な展示と活用方法の工夫に努める。</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 新規テーマ（特集）展示																							
	<table border="1"> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <th>令和 2 年度</th> <th colspan="2">令和 3 年度</th> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2 件以上</td> <td>2</td> <td></td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績	実績	実績	実績	2	2	2	3	令和 2 年度	令和 3 年度			実績	目標	実績		2	2 件以上	2
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																					
実績	実績	実績	実績																					
2	2	2	3																					
令和 2 年度	令和 3 年度																							
実績	目標	実績																						
2	2 件以上	2																						
令和 3 年度	○ [評価指標] ワンポイント解説																							
	<table border="1"> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>558 人</td> <td>708 人</td> <td>764 人</td> <td>669 人</td> </tr> <tr> <th>令和 2 年度</th> <th colspan="2">令和 3 年度</th> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>313 人</td> <td>500 人</td> <td>590 人</td> <td></td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績	実績	実績	実績	558 人	708 人	764 人	669 人	令和 2 年度	令和 3 年度			実績	目標	実績		313 人	500 人	590 人
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																					
実績	実績	実績	実績																					
558 人	708 人	764 人	669 人																					
令和 2 年度	令和 3 年度																							
実績	目標	実績																						
313 人	500 人	590 人																						
計画期間全般 (H29～R3)	<p>(1) 定期資料展示替え 新潟県のあゆみ・雪とくらし・米づくり・縄文文化を探る、それぞれについて 4 月、10 月に実施。</p> <p>(2) 常設展定期点検 隔週（照明・電気の点検、ケース内及びガラス清掃）</p> <p>(3) 常設展の保守点検・補修 2 回（展示品・機器の総合点検）</p> <p>(4) 常設展のワンポイント解説 インカムも適宜利用、74 回、平均参加人数 6.4 人</p> <p>(5) 縄文の世界を歩く&amp;面白歴史体験～英語・手話で見る縄文文化～を実施 日本博事業として、定員 20 人で縄文人の世界と縄文文化を探るコーナーを見学の後、まが玉を作るコースを 1 回実施</p> <p>(1) 定期資料展示替え 毎年 4 月、10 月に実施を励行。</p> <p>(2) 常設展定期点検 隔週（照明・電気の点検、ケース内及びガラス清掃）を毎年度実施。</p> <p>(3) 常設展の保守点検・補修 2 回（展示品・機器の総合点検）を毎年度実施。</p> <p>(4) 常設展示ワンポイント解説ゲスト解説の実施 平成 27 年度より、他館の学芸員等によるゲスト解説を実施。</p> <p>(5) スマートフォン用解説アプリ導入 令和 2 年度より</p> <p>(6) 縄文の世界を歩く&amp;面白歴史体験～英語・手話で見る縄文文化～を日本博事業として開始</p>																							
分析																								

令和3年度	(1) 展示資料交換を行っていることが観覧者にわかるように展示期間を明示している。 (2) 設備・機器・資料等は定期点検や保守点検で維持され、良好な見学環境を保ってはいるが、部品供給ができなくなった機器も多い。 (3) 特集展示（新規テーマ）として「阿賀町の仕事着」、「山口賢俊撮影写真に見る湿田での稲刈りと稲運び」及び「奥羽仕置と色部長真」（奥羽再仕置 430 年記念プロジェクト）という時宜を得た展示を行った。
計画期間全般 (H29～R3)	(1) 展示資料交換の展示期間明示を平成 27 年度以降実施。 (2) ゲスト解説は、好評を得ていたが、令和元年度末より中止となっている。 (3) 設備・機器・資料等は定期点検や保守点検で維持され、良好な見学環境を保っている。
課題	(1) 開館 20 年を経過し部品調達の困難な展示機器の更新が必要となっている。

取組に対する全体的自己評価	
令和3年度	評価できる <span style="border: 1px solid black;">やや評価できる</span> やや評価できない 評価できない 判断保留
計画期間全般 (H29～R3)	評価できる <span style="border: 1px solid black;">やや評価できる</span> やや評価できない 評価できない
	H29 H30 R1 R2 B B A A

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する全体的評価	
令和3年度	<span style="border: 1px solid black;">評価できる</span> やや評価できる やや評価できない 評価できない 判断保留
計画期間全般 (H29～R3)	評価できる <span style="border: 1px solid black;">やや評価できる</span> やや評価できない 評価できない 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<p>令和3年度についてはコロナ禍の続く中ではあるが、新規テーマ（特集）展示、ワンポイント解説共に、実績は目標値をクリアしている。時宜を得た新規テーマ展示や展示の保守点検、展示方法の改善等の地道な取り組みは変わらず行われている。前年度に続き、日本博事業として手話通訳付き、英語通訳付き展示解説と、まが玉作り体験が実施されたことは評価できる。引き続き、アンケート結果や来場者の意見に基づいた展示室の環境整備への取り組みとリニューアルにも期待したい。</p> <p>計画期間全般としては新型コロナの影響を受けた年度もあったが、各年度共におおむね順調な取り組み実績を残している。令和2年度からはスマートフォン用解説アプリを導入するなど、時代に対応する取り組みを積極的に行ってきており評価できる。近年の来場者動向から、常設展示への評価は高く、期待も高いことがうかがえる。</p> <p>開館 20 年を経過し、機器の更新や展示のリニューアルは常に大きな目標ではあるが、なかなか進んでいない。常設展示の価値の維持とさらなる向上に期待する。</p>

## 活 動 評 価 表

機能・取組分野	展示－企画展示	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査研究の反映や収蔵資料の活用により魅力ある企画展を実施する。</li> <li>・集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年4回程度の企画展の実施を目標とする。</li> <li>・入場者の満足度を高める</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績

○ [評価指標] 企画展示室実績事業

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実績	実績	実績	実績
7 回	9 回	6 回	9 回
令和 2 年度	令和 3 年度		
実績	目標	実績	
7 回	7 回以上	8 回	

○ [評価指標] 満足度

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実績	実績	実績	実績
91%	92%	93%	95%
令和 2 年度	令和 3 年度		
実績	目標	実績	
95%	90%	91%	

令和3年度

- (1) 企画展
- |                     | 観覧者数(実績) | (開催日数) |
|---------------------|----------|--------|
| 春「博覧会の世紀 1851-1970」 | 3,689 人  | (39 日) |
| 夏「日蓮聖人と法華文化」        | 4,483 人  | (39 日) |
- ※企画展の目的・展示内容・関連イベント・広報等の詳細は別途報告。
- (2) 関連講演・講座  
新型コロナ対策のため講演会・講座は参加人数を制限して開催した。
- (3) 関連イベント等  
春「博覧会缶バッジを作ろう!」、「ミニペナントをつくろう」(研修室)
- (4) 企画展以外の企画展示室実施事業
- 9～11 月・テーマ展示「四季の暮らし、小さなまつり-新潟県の年中行事-」  
(4,525 人)
- 11～12 月・新潟県立歴史博物館友の会主催「マイコレクションワールド」
- ・「キッズ歴史作品研究展」
  - ・「kid's 考古学新聞コンクール全国巡回展」
- 1～3 月・テーマ展示「やきもの産地・新潟」・信濃川火焰街道連携協議会「火焰街道 2022」を開催 (2,938 人)

<p>計画期間全般 (H29～R3)</p>	<p>(1) <b>企画展</b>  29年度 春「猫と人の200年」 13,786人、夏「クイズとたいけん！むかしの暮らし」 12,491人、秋「川中島の戦い」 9,240人、冬「守れ！文化財―博物館のチカラ、市民のチカラ―」 4,283人  30年度 春「粋な古伊万里」 10,255人、夏「戊辰戦争150年」 15,537人、秋「徳川の栄華」 19,420人、冬「村の肖像 山と川から見た にいがた」 6,400人  R1年度 春「浮世絵でみる！お化け図鑑」 15,850人、夏「新たな国民のたから」 8,319人、秋「国民の文化財」 8,570人、冬「越後佐渡の温泉文化」 4,424人  R2年度 春「江戸の遊び絵づくし」 2,588人、夏「戦後75年」 8,337人、秋「発掘された日本列島」 5,830人  R3年度 上記</p> <p>(2) <b>関連講演・講座</b> 講演会を毎回開催し、展示解説も実施した。</p> <p>(3) <b>関連イベント等</b> 関連の体験プログラムを実施。企画展によってはオリジナルのプログラムを開発している（「博覧会缶バッジを作ろう！」、「ミニペナントをつくろう」など）。</p> <p>(4) <b>クイズラリー等</b> 29年度クイズとたいけん！むかしの暮らし</p> <p>(5) <b>その他</b> 「マイコレクション展」は毎年開催。</p>
<p>分析</p> <p>令和3年度</p>	<p>(1) 新型コロナのため、講演会以外の関連イベントは中止。体験プログラムは人数制限を行って実施した。また、県外からの来館者への広報を控えた。</p> <p>(2) 春季展は、巡回展に加え県内で開催された博覧会関係の資料を展示し、来館者の所蔵する資料を展示するコーナーを設けるなど来館が参加できる工夫を盛り込んだ。  夏季展は、山梨県立博物館との連携企画で、関連する優品が数多く展示され、一定の評価を得たが、当初見込んでいた県外からの大型団体等が新型コロナのためほぼ来館がなかったこともあり来館者数は伸び悩んだ。  秋季テーマ展は予算をかけずに実施したもので、県民のニーズにあったテーマであったこと、職員の豊富な調査研究の成果を還元したものであり、一定の評価を得た。  冬季テーマ展は当館に寄贈されたコレクションに関する職員の調査研究を還元したものの。</p> <p>(3) 新型コロナによる来館者の減及び県予算の削減による企画展の回数減により例年よりも企画展の観覧者は大きく減少した。</p> <p>(4) 展覧会を通じた県内外の諸団体との連携を図った。</p> <p>(5) 企画展観覧者の常設展観覧料免除廃止もあり、企画展開催期間中でも常設展のみの観覧券購入者が多かった（44%）。</p> <p>計画期間全般 (H29～R3)</p> <p>(1) R1年度までは4回実施、予算削減によりR2年度は3回、R3年度は2回となったが、テーマ展示を開催し企画展示室の運用を行っている。</p> <p>(2) 講演会・関連イベントなどは、毎回好評を得ている。</p> <p>(3) 展覧会は、随時県内外の諸団体との連携を図りつつ開催している。</p> <p>(4) 研究員の研究成果を還元した展示を毎年度開催している。</p>

課 題	(1) 展示を見せる工夫に時間を割くことが難しい。 (2) 集客面から広報・交流普及担当と、より質の高い連携が必要である。				
取組に対する全体的自己評価					
令和3年度	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H29～R3)	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
				H29 H30 R1 R2	
				A B B B	

II 評価委員会による検証・評価					
取組に対する全体的評価					
令和3年度	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H29～R3)	評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<p>令和元年度までは年4回開催されてきた企画展が、予算が減額されたことで令和2年度は3回、令和3年度は2回と目標回数の半分となったことは、誠に残念である。その代替として令和2年度から開催しているテーマ展示は、館の所蔵品や資料などを活用し開催していることは評価できるが、資源等が限られていることからいつまで継続できるかの問題もある。</p> <p>令和2年度、令和3年度とも新型コロナの影響を受けながら、2つの評価指標とも目標数値を上回ったことは評価できる。</p> <p>令和3年度夏の企画展「日蓮聖人と法華文化」は、山梨県立博物館との連携企画で、優れた展示が多く、県外からの来館者もたくさん見込んでいたが、新型コロナの影響を受け、期待値を大きく下回ってしまった。</p> <p>令和3年度の秋および冬のテーマ展は職員の調査研究を還元したものであり、調査研究の還元展示が毎年継続されていることを評価したい。</p> <p>今後の新しい状況下で、当館の華とも言える企画展示に少しでも多くの観覧者を増やす努力を期待する。</p>				

## 活動評価表

機能・取組分野	調査・研究	学芸課・経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。</li> <li>・館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元に努める。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合・個別研究費などを有効に活用した研究活動を推進し、その成果を県民に還元する。</li> <li>・講座参加者の満足度を高める。</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績

- [評価指標] 外部研究費取得件数 ( )内分担者分 内数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実績	実績	実績	実績
7(3) 件	9(3) 件	11(4) 件	9(3) 件
令和 2 年度	令和 3 年度		
実績	目標	実績	
12(5) 件	6 件	10(5) 件	

- [評価指標] 学会発表等件数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実績	実績	実績	実績
13 回	9 回	16 回	11 回
令和 2 年度	令和 3 年度		
実績	目標	実績	
7 回	11 回	16 回	

- [評価指標] 論文等執筆件数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実績	実績	実績	実績
52 件	36 件	62 件	49 件
令和 2 年度	令和 3 年度		
実績	目標	実績	
36 件	55 件以上	43 件	

令和3年度

- (1) 外部研究費 (科学研究費ほか)

- ・前嶋 敏 史資料原本調査を中心とした中世文書群の伝来に関する研究
- ・田邊 幹 「越佐徴古館」構想の復元を通じた「横田切」水害被災地の復興など

- (2) 学会発表等

- ・西田泰民 「X線CTによる繊維土器の研究」
- ・橋詰 潤 「小瀬ヶ沢洞窟遺跡出土のいわゆる「植刃」と関連資料の再検討」など

- (3) 論文等執筆

- ・三国信一 「盆行事におけるタケニグサの利用」
- ・大楽和正 「盆供のエゴノリとテングサ」、など

計画期間全般 (H29～R3)	(1) <b>外部研究費</b> (科学研究費ほか) 年に5～6件の科研費取得。共同研究者、研究協力者としての外部研究費取得も4件前後と、毎年取得している。 (2) <b>学会発表等</b> 平均では目標値を達成したが、変動が大きい。 (3) <b>論文等執筆</b> 目標値に届いたのはH30年度のみであった。 (4) <b>館内研究の還元</b> 28年度春季企画展「おふだにねがいを」の内容が一般書籍として刊行された。
分析	
令和3年度	(1) 外部研究費は研究分担者を含め、目標を上回る取得件数である。 (2) 館外での調査が制限されたこともあり論文等執筆件数が目標に達していない。
計画期間全般 (H29～R3)	(1) 外部研究費は、安定して取得できている。 (2) 学会発表等は、目標値を高く設定していることもあり、達成が困難な状態が続いている。
課題	(1) 日常業務の中で研究に当てることが出来る割合に差が生じるため、中期的な見直しを持った業務配分が必要である
取組に対する全体的自己評価	
令和3年度	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>
計画期間全般 (H29～R3)	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/>
	H29 H30 R1 R2 A A B B

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する全体的評価	
令和3年度	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>
計画期間全般 (H29～R3)	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	<p>外部資金、とりわけ日本学術振興会の科研費の獲得件数が、当該期間中常に目標を達成しており、高い研究能力を維持していることの証左といえよう。研究に充てる時間の確保も容易でないことが推察されるが、そのような環境下での、こうした実績は高く評価できる。</p> <p>他方、学会発表数や論文等発表数は目標に達していない年度が目につく。令和元、令和2年度についてはコロナ禍に伴い、発表の機会が一時的に減少したためと考えられるが、また、そもそも目標値が極めて高いことも目標未達成の一因といえよう。</p> <p>論文等の発表の場としては、学術雑誌のほか、当館発行の展覧会図録所収の論文も含まれるとのことである。こうした地道な研究の積み重ねが、独自の企画展示や常設展示の充実につながり、調査・研究は本館の重要な活動の一つであり、さらなる充実を期待したい。</p>

## 活動評価表

機能・取組分野	教育・普及 / 学校教育	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育に一層活用される博物館を目指す。</li> <li>・新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。</li> <li>・館内及び館外活動の充実を図る。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育機関への施設利用の周知</li> <li>・体験学習・体験活動の新たなプログラムの開発・導入に努める。</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績

- [評価指標] 県内小学校の来館率

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実績	実績	実績	実績
35%	36%	35%	34%
令和 2 年度	令和 3 年度		
実績	目標	実績	
29%	35%	28%	

- [評価指標] 体験活動の新プログラム導入件数

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実績	実績	実績	実績
5 件	3 件	2 件	2 件
令和 2 年度	令和 3 年度		
実績	目標	実績	
2 件	1 件以上	2 件	

- [評価指標] 体験コーナーの参加者満足度

平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
実績	実績	実績	実績
99%	99%	100%	90%
令和 2 年度	令和 3 年度		
実績	目標	実績	
100%	90%以上	100%	

令和 3 年度

- (1) 県内小学校来館校数 111 校(延べ数)  
 ・常設展示自由見学用のクイズ形式のプリントを、児童生徒の発達段階に応じて利用できるよう 3 種類用意した。
- (2) 体験活動の新規プログラム  
 ・2 件の新規オリジナルプログラム「ミニペナントづくり」、「七夕ひな人形作り」を企画し、実施した。  
 ・体験活動は、三密回避や消毒作業が可能なメニューを中心として実施しているが、感染対策に留意しながら徐々に活動の種類を増やしている。  
 ・その他、参加者連絡先の把握、ボランティアを含むスタッフの感染防止対策、従来より広い会場を使いつつ人数制限及び回数減などの対策を施す等して事業を実施している。
- (3) 出前授業の実施 14 回 661 人 (まが玉づくり、北前船、戦争中の社会など)。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度夏季企画展をきっかけに、戦争体験をテーマにした出前授業の依頼があり、他校でも実施できるように内容や方法を検討している。</li> </ul> <p>(4) <b>教育機関への施設利用の周知活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナのため、学校長等の研修会が開催されなかったこともあり、チラシによる利用案内の継続にとどまった。</li> </ul> <p>(5) <b>学校との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度に引き続き、企画展開場式を中止したため、高等学校新聞部との連携はなかった。</li> <li>・県教育庁が行っている高校生インターンシップには、6名の参加があった。</li> <li>・中学校3校からの職場体験の依頼があり、受け入れた。</li> </ul>
計画期間全般 (H29～R3)	<p>(1) <b>県内小学校来館校数</b> 減少傾向にある。</p> <p>(2) <b>体験活動の新規プログラム</b> 「ネコ缶バッジを作ろう!」「ミニ草履の飾りを作ろう!」「作って遊ぼう! 戦国時代」「旗印ストラップ」「ミニ米俵」「織物模様ストラップ」「お化け缶バッジ」「ミニ灯籠づくり」、「紙芝居読み聞かせ」「ミニペナントづくり」、「七夕ひな人形作り」計11プログラム</p> <p>(3) <b>出前授業の実施</b> 29年度・20回、30年度・21回、R1年度・27回、R2年度・15回、R3年度・14回と、実施回数にばらつきがあるが、新規の内容を考案するなど、その内容の充実に努めている。</p> <p>(4) <b>教育機関への施設利用の周知活動</b> 毎年度各種団体等への周知活動を実施している。</p>
分 析	
令和3年度	<p>(1) 新型コロナの影響で令和2年度は学校団体来館者数が減少したが、今年度は令和元年度並の人数となった(R元:約7500人、R2:約6200人、R3:約8000人)。要因として、県内遠方からの学校団体来館や、中学校・高校の修学旅行(県外からの振替)による来館が増えたことがあげられる。 また、上記の学校団体は旅行会社を通した予約が大半であるため、旅行会社への広報を継続する。</p> <p>(2) 体験活動は、限られたメニューの繰り返しではあるが、参加者の満足度は高い水準を維持している。</p> <p>(3) 新規の体験プログラムとして、「ミニペナント作り」「七夕雛人形飾り」の2件を企画した。事前に現地テストを行うなど検討を重ね、無事実施できた。</p> <p>(4) 出前授業の実施回数、参加人数は昨年度並みであった。コロナ禍が落ち着けば令和4年度以降のニーズが見込まれる。</p> <p>(5) 視察や来館の際に、教職員からは展示や解説、体験活動について高い評価を得ている。</p>
計画期間全般 (H29～R3)	<p>(1) 小学校来館数は、減少傾向にあり、学校数そのものの減少と新型コロナ感染拡大の影響がある。一方修学旅行利用が増加した。</p> <p>(2) 体験コーナー参加者の満足度は、常に90%以上の高い水準を維持している。</p> <p>(3) 教職員には、展示や解説、体験活動について高い評価を得ているので、来館経験の無い教職員に対する働きかけを強化する必要がある。</p>
課 題	<p>(1) 幅広い教員層に対する広報活動の重点化、教員研修の実施</p> <p>(2) 体験活動の新プログラム開発・内容の充実と新規性のPR</p> <p>(3) 事前事後学習に役立つ教材や学習機会準備</p>

取組に対する全体的自己評価					
令和3年度	評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H29～R3)	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	H29 H30 R1 R2
					A A A A

II 評価委員会による検証・評価					
取組に対する全体的評価					
令和3年度	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
計画期間全般 (H29～R3)	<input checked="" type="checkbox"/> 評価できる	やや評価できる	やや評価できない	評価できない	判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<p>新型コロナの影響により、利用をちゅうちょする学校が多くあったと推測されるなか、令和3年度には約8,000人の学校団体の来館者があった。また、県内遠方からの来館や、県外の中高の修学旅行の来館が増えるなど、コロナ禍に順応した広報が利用を促進した。今後も利用促進の広報活動を展開してほしい。</p> <p>体験プログラムについては感染拡大が懸念されるため、開催する回数を減らすことは館としては当然である。限られた体験活動の中での満足度が常に高いことは評価できる。今後も新規のプログラムを開拓するなど、積極的な体験活動を期待する。</p> <p>出前授業の依頼が近年減少しているのは新型コロナの影響によりやむを得ないことであるが、戦争体験をテーマにした出前授業を行う等、企画展をきっかけにして新たな取組に挑戦してほしい。</p>				

### 県内小学校団体利用率の推移

年度	A：来館校数	B：出前授業利用校数	A+B	県内小学校数	比率
24	150	6	156	525	29.9
25	165	15	179	510	35.1
26	142	16	158	485	32.6
27	138	13	151	484	31.2
28	144	17	161	481	33.5
29	147	20	167	471	35.5
30	140	21	161	463	34.8
31(R1)	128	27	155	451	30.4
R2	115	13	128	447	28.6
R3	111	14	125	440	28.4

### 学校団体来館者数の推移

年度	小学校（新潟県内）		小学校（県外）		中学校（新潟県内）		中学校（県外）	
	来館校数	来館者数	来館校数	来館者数	来館校数	来館者数	来館校数	来館者数
24	150	7,456	8	722	20	560	0	0
25	165	7,896	10	765	31	1,198	0	0
26	142	6,256	8	440	22	592	3	43
27	138	5,865	7	470	30	943	2	43
28	155	6,198	11	638	34	1,018	2	114
29	147	5,492	11	670	23	362	2	105
30	140	5,807	10	728	38	503	4	129
31(R1)	128	4,588	12	776	30	484	3	146
R2	115	4,010	2	30	29	1,294	1	53
R3	111	4,120	7	200	32	1,034	7	754

年度	特別支援学校（県内外）		幼稚園・保育園等（県内外）		高校（県内外）		大学（県内外）	
	来館校数	来館者数	来館校数	来館者数	来館校数	来館者数	来館校数	来館者数
24	10	167	21	1,802	11	1,148	11	241
25	14	86	9	562	11	852	10	234
26	11	120	7	296	6	627	10	181
27	12	109	16	785	10	1,537	16	484
28	13	142	13	682	4	142	23	483
29	12	62	7	363	9	427	20	685
30	14	91	17	657	15	1,087	22	299
31(R1)	14	129	9	368	9	794	16	262
R2	15	124	5	241	9	399	9	71
R3	10	152	4	137	17	1,578	8	101

## 活動評価表

機能・取組分野	教育・普及 / 社会教育	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。</li> <li>・ 館内・館外での活動の充実を図る。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会教育機関との連携に努める。</li> <li>・ 館内講座・出前講座を継続する。</li> <li>・ ボランティアの受入の推進。</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ 出前講座の参加者満足度	<table border="1"> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>92%</td> <td>92%</td> <td>96%</td> <td>95%</td> </tr> <tr> <th>令和 2 年度</th> <th colspan="2">令和 3 年度</th> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>96%</td> <td>90%</td> <td>91%</td> <td></td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績	実績	実績	実績	92%	92%	96%	95%	令和 2 年度	令和 3 年度			実績	目標	実績		96%	90%	91%	
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																						
	実績	実績	実績	実績																						
	92%	92%	96%	95%																						
	令和 2 年度	令和 3 年度																								
	実績	目標	実績																							
	96%	90%	91%																							
	○ 館員の講座・講演会の参加者満足度	<table border="1"> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>94%</td> <td>96%</td> <td>93%</td> <td>94%</td> </tr> <tr> <th>令和 2 年度</th> <th colspan="2">令和 3 年度</th> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>99%</td> <td>90%</td> <td>95%</td> <td></td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績	実績	実績	実績	94%	96%	93%	94%	令和 2 年度	令和 3 年度			実績	目標	実績		99%	90%	95%	
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																						
	実績	実績	実績	実績																						
94%	96%	93%	94%																							
令和 2 年度	令和 3 年度																									
実績	目標	実績																								
99%	90%	95%																								
○ ボランティアの活動延人数（中学生ボランティア・大学生ボランティア除く。）	<table border="1"> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>538 人</td> <td>496 人</td> <td>435 人</td> <td>458 人</td> </tr> <tr> <th>令和 2 年度</th> <th colspan="2">令和 3 年度</th> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>186 人</td> <td>500 人</td> <td>273 人</td> <td></td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績	実績	実績	実績	538 人	496 人	435 人	458 人	令和 2 年度	令和 3 年度			実績	目標	実績		186 人	500 人	273 人		
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																							
実績	実績	実績	実績																							
538 人	496 人	435 人	458 人																							
令和 2 年度	令和 3 年度																									
実績	目標	実績																								
186 人	500 人	273 人																								
令和 3 年度	<p>(1) 出前講座 県内 12 市町村からの要請で 33 回実施、参加者 914 名</p> <p>(2) 館内講座 38 講座を実施、参加者 710 名</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナ対策として、定員を約 3 分の 1（18 名程度）まで減らして実施。また、新型コロナ対策が困難な一部の体験型講座は中止した。</li> </ul> <p>(3) ボランティア登録者 24 名</p> <p>(4) ボランティア活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料整理、講座の受付、広報活動、体験コーナー補助及び体験メニュー開発と運営への参画</li> </ul> <p>(5) ボランティア増加の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新型コロナにより活動の場が減っていること、登録者が一定程度の人数になっていること、ボランティアへの新型コロナ感染防止の観点などから、人数の大幅拡大路線は控え、当分の間、従来を取組を継続する予定である。</li> </ul>																									

<p>計画期間全般 (H29～R3)</p>	<p>(1) <b>出前講座</b> 29年度19回(707人)、30年度21回(676人)、R1年度22回(559人)、R2年度16回(364人)、R3年度33回(914人)</p> <p>(2) <b>館内講座</b> 29年度43回(1,255人)、30年度38回(2,527人)、R1年度35回(2,319人)、R2年度17回(402人)、R3年度38回(710人)</p> <p>(3) <b>ボランティア登録者</b> 29年度20名、30年度21名、R1年度18名、R2年度24名、R3年度24名と、ほぼ安定している。</p> <p>(4) <b>ボランティア活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料整理、講座の受付、体験コーナーや学校団体の体験活動の補助等</li> <li>・体験プログラムの開発・運営に参画</li> <li>・常設展示室「縄文人の世界」案内解説(中学生ボランティア)</li> </ul> <p>(5) <b>ボランティア増加の取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生ボランティアの継続実施</li> <li>・来館者に対する広報活動の重点化</li> </ul>
<p>分析</p>	<p>令和3年度</p> <p>(1) 出前講座は市町村の要請に基づいて計画、実施した。R3年度の参加人数増は、実施回数増加による。研究員毎の担当回数の差が大きい。</p> <p>(2) 館内講座は安定した参加者を確保し、満足度が高い。</p> <p>(3) ボランティア登録者はここ数年の間、20名前後で推移している。</p> <p>(4) ボランティア活動については、前年度に引き続きボランティアへの新型コロナ感染防止のため、企画展監視や防災訓練への参加募集を中止した。また、時期により講座受付及び体験コーナー補助等、来館者との接触がある活動を制限した。これらの対策をとったことにより、延人数は微増にとどまっている。</p> <p>(5) R3年度は中学生ボランティアの応募がなかった。館近隣の学校に限定し3年生のみの募集をかけていたが、近年の学校をとりまく状況変化により、応募状況が変化している。様々な状況を考慮し、R4年度は長岡市内(周辺地域を含む)の中学生(1～3年)を対象として募集することを計画している。</p> <p>計画期間全般 (H29～R3)</p> <p>(1) 出前講座は市町村の要請に基づいて計画、実施し、市町村及び公民館等の担当者との連絡を密にし、より多くの県民の利用につながるよう取り組んでいる。</p> <p>(2) 館内講座は、学芸課研究員1名につき3回程度担当し、様々なテーマで実施しており、人気の高い古文書については、全くの初心者向けも開催している。企画展と連動した記念講演会や講座も好評を博し、新規聴講者もその都度獲得している。</p> <p>(3) ボランティア登録者は各活動へ熱心に参加していただいている。体験プログラムの企画・運営にも参画し、よりよい博物館活動になるよう尽力されているが、R2年3月より活動を停止あるいは縮小せざるを得ない状況が続いている。</p> <p>(4) R2年度まで中学生ボランティアによる常設展示の案内解説を実施し若年層の社会参加、館の事業として公共の場における情報発信を進めることができた。</p>
<p>課題</p>	<p>(1) 出前講座：各地区の生涯学習担当者との連携強化、広報活動展開</p> <p>(2) 館内講座：固定客の維持、参加者の若年層への拡大</p> <p>(3) ボランティア：活動内容と組織の充実、活動に即した研修等の実施</p>
<p>取組に対する全体的自己評価</p>	

令和3年度	評価できる <span style="border: 1px solid black;">やや評価できる</span> やや評価できない 評価できない 判断保留
計画期間全般 (H29~R3)	評価できる <span style="border: 1px solid black;">やや評価できる</span> やや評価できない 評価できない
	H29 H30 R1 R2 A B B B

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する全体的評価	
令和3年度	評価できる <span style="border: 1px solid black;">やや評価できる</span> やや評価できない 評価できない 判断保留
計画期間全般 (H29~R3)	評価できる <span style="border: 1px solid black;">やや評価できる</span> やや評価できない 評価できない 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<p>この5年間、出前講座は新型コロナの影響により回数、人数ともに減少したことは当然である。コロナ禍の終息が見え始めたタイミングで攻勢に転じた令和3年度の33回、914人は評価できる。また、満足度が毎年90%を超えていることも評価できる。今後も市町村に積極的に広報を重ね、特に来館が困難な地域での生涯学習を推進することを期待する。</p> <p>館内講座に関しては、コロナ禍で人数制限をしていることもあり、人数の増減による比較は困難である。満足度に関しては、ここ5年間93~96%という高水準を維持しており、評価できる。</p> <p>ボランティアの登録に関しても、館内講座同様、コロナ禍で活動停止あるいは縮小せざるを得ない状況が続いているため、人数の増減による比較は困難である。コロナ禍においては案内解説等の対人の活動から、資料整理やメニュー開発等、人との関わりを持たない活動に今後ウエイトを置く等、活動内容の精査を期待する。</p>

## 活動評価表

機能・取組分野	連 携－学術面の連携	学芸課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。</li> <li>・ 幅広い団体とのネットワークを強化する。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新潟県の中核機関として、地域史研究や資料保存活動を推進する。</li> <li>・ 県内外の他館および団体と共催しての巡回展の実施に努める。</li> </ul>	

I 博物館による自己点検と評価																																																	
取組実績	<p>○ [評価指標] 地域史研究ネットワーク事業数</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td>平成 29 年度</td> <td>平成 30 年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>2 件</td> <td>2 件</td> <td>2 件</td> <td>1 件</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td colspan="2">令和 3 年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1 件</td> <td>2 件以上</td> <td>1 件</td> <td></td> </tr> </table> <p>○ [評価指標] 展示協力等他機関との連携事業</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td>平成 29 年度</td> <td>平成 30 年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>継続</td> <td>継続</td> <td>継続</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td colspan="2">令和 3 年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>継続</td> <td>継続</td> <td></td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績	実績	実績	実績	2 件	2 件	2 件	1 件	令和 2 年度	令和 3 年度			実績	目標	実績		1 件	2 件以上	1 件		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績	実績	実績	実績	継続	継続	継続	継続	令和 2 年度	令和 3 年度			実績	目標	実績		継続	継続	継続	
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																																														
実績	実績	実績	実績																																														
2 件	2 件	2 件	1 件																																														
令和 2 年度	令和 3 年度																																																
実績	目標	実績																																															
1 件	2 件以上	1 件																																															
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																																														
実績	実績	実績	実績																																														
継続	継続	継続	継続																																														
令和 2 年度	令和 3 年度																																																
実績	目標	実績																																															
継続	継続	継続																																															
令和 3 年度	<p>(1) 地域史研究ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新潟県地域史研究ネットワークニュースの発行（月 1 回）</li> <li>・ 研究紀要に新潟県関連の文献目録を掲載（年 1 回）</li> </ul> <p>(2) 移動展 1 件</p> <p>(3) 展示協力 4 件</p> <p>(4) 研究協力 29 件</p> <p>(5) 高等教育機関講師派遣 26 件（新潟大学・長岡技術科学大学・長岡造形大学・新潟産業大学・県立看護大学・新潟薬科大学・長岡崇徳大学・國學院大學）</p>																																																

計画期間全般 (H29～R3)	<p>(1) <b>地域史研究ネットワーク</b> 新潟県地域史研究ネットワークニュースの発行（月1回） 研究紀要に新潟県関連の文献目録を掲載（年1回） 各展示施設での感染症対策実施状況アンケートを実施（R2）</p> <p>(2) <b>地域史ネットワーク参加団体対象研修</b> 継続（館内向け I P M研修を公開など）</p> <p>(3) <b>移動展</b> 5年間で4回実施。「復興祈念展」1回（福島県二本松市）、「古代幻影展」1回（聖籠町立図書館）、高校生アカデミックインターンシップ成果展（R1、R3）</p> <p>(4) <b>展示協力</b> 29年度4件、30年度3件、R1年度5件、R2年度10件、R3年度4件</p> <p>(5) <b>研究協力</b> 29年度4件、30年度4件、R1年度13件、R2年度20件、R3年度29件</p> <p>(6) <b>全国規模研究会への参画</b> 被災文化財等救援委員会など、毎年度参画研究会がある。</p> <p>(7) <b>高等教育機関講師派遣</b> 29年度29件、30年度21件、R1年度22件、R2年度21件、R3年度26件（新潟大学・長岡技術科学大学・長岡造形大学ほか）</p>																								
分析																									
令和3年度	<p>(1) 地域史ネットワークは参加団体向けの研修など充実をはかっている。</p> <p>(2) 移動展・展示協力・研究協力・高等教育機関講師派遣など、県内外との協力関係が引き続き維持できている。</p>																								
計画期間全般 (H29～R3)	<p>(1) 地域史ネットワークは増加傾向を示している。</p> <p>(2) 参加団体向けの研修など充実をはかっている。</p> <p>(3) 移動展・展示協力・研究協力・高等教育機関講師派遣など、県内外との協力関係が引き続き維持できている。</p>																								
課題	(1) 地域史ネットワーク参加団体向け研修を定期化し、また内容の充実をはかっていく。																								
取組に対する全体的自己評価																									
令和3年度	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>																								
計画期間全般 (H29～R3)	<table border="1"> <tr> <td>評価できる</td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td>やや評価できる</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>やや評価できない</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>評価できない</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>R2</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>A</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>B</td> </tr> </table>	評価できる	<input checked="" type="checkbox"/>	やや評価できる	<input type="checkbox"/>	やや評価できない	<input type="checkbox"/>	評価できない	<input type="checkbox"/>	H29	H30	R1	R2									A	A	B	B
評価できる	<input checked="" type="checkbox"/>	やや評価できる	<input type="checkbox"/>	やや評価できない	<input type="checkbox"/>	評価できない	<input type="checkbox"/>	H29	H30	R1	R2														
								A	A	B	B														

II 評価委員会による検証・評価	
取組に対する全体的自己評価	
令和3年度	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>
計画期間全般 (H29～R3)	評価できる <input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる <input type="checkbox"/> やや評価できない <input type="checkbox"/> 評価できない <input type="checkbox"/> 判断保留 <input type="checkbox"/>
評価のコメント及び今後の課題方向性等の提言	最近3カ年、地域史研究ネットワーク事業数は、達成できていない。依頼を受けたものだけでなく、より自発的、主体的な事業の実施が望まれる。ただし、コロナ禍により、他団体でも多くの事業を中止しており、十分な連携が図れなかったことを考慮したい。

	<p>「移動展」、「展示協力」、「研究協力」、「高等教育機関講師派遣」など、県内外の様々な団体と協力を図っている。今後も工夫をしつつ、主体的に連携を推進していただきたい。</p> <p>「地域史研究ネットワークの充実」は、課題として毎年挙がっている。新潟県の中核博物館として、地域史研究をけん引する組織作り、成果を期待する。</p>
--	--

## 活動評価表

機能・取組分野	連携 / 地域づくりに向けた連携	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史を通じた県内各地の地域づくりに貢献する。</li> <li>・近隣の施設や様々な団体との連携を深める。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体との事業共催等による連携を模索する。</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 共催事業等による連携団体数																							
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td>平成 29 年度</td> <td>平成 30 年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>30 件</td> <td>15 件</td> <td>25 件</td> <td>25 件</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td colspan="2">令和 3 年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8 件</td> <td>15 件</td> <td>8 件</td> <td></td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績	実績	実績	実績	30 件	15 件	25 件	25 件	令和 2 年度	令和 3 年度			実績	目標	実績		8 件	15 件	8 件
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																					
実績	実績	実績	実績																					
30 件	15 件	25 件	25 件																					
令和 2 年度	令和 3 年度																							
実績	目標	実績																						
8 件	15 件	8 件																						
令和 3 年度	<p>(1) 新潟県立歴史博物館友の会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友の会主催展覧会 「第 18 回マイ・コレクション・ワールド」の開催 (11 月～12 月)</li> <li>映画上映会「「LIGHT UP NIPPON—日本を照らした奇跡の花火—」(12 月)</li> </ul> <p>(2) 県内各種イベントでの体験ワークショップ</p> <p>新型コロナによりイベント自体が実施されなかった。</p> <p>(3) 伝統芸能上演会</p> <p>新型コロナのため中止</p> <p>(4) その他の関係団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信濃川火焰街道連携協議会、新潟県民俗学会、関原町サイノカミ有志の会、Kid's 考古学研究所、越後えご保存会など</li> </ul> <p>(5) リピーター割引の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・馬高縄文館、近代美術館、雪国植物園、越後丘陵公園など近隣施設や万代島美術館、自然科学館などの県内美術館博物館の半券を提示することで当館の企画展観覧料を 2 割引とし、連携を進めている。</li> </ul> <p>(6) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関原町サイノカミ有志の会と協働して、平成 12 年度(2000 年)から毎年サイノカミを開催している</li> </ul>																							

<p>計画期間全般 (H29～R3)</p>	<p>(1)新潟県立歴史博物館友の会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友の会主催展覧会「マイ・コレクション・ワールド」毎年度開催</li> <li>・研修旅行 県内外実施。</li> <li>・映画上映会、コンサート等随時実施</li> </ul> <p>(2)県内各種イベントでの体験ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関原楽市・縄文まつり（11月）でのまが玉作り体験（関原地区商工会主催）、長岡まつり（8月）、米百俵まつり（10月）での江戸時代の遊び及び甲冑体験は、令和元年まで実施した。</li> </ul> <p>(3)文化遺産総合活用推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごぜ唄ネットワーク、佐渡郷土文化の会との主催事業（H30, R1）</li> </ul> <p>(4)その他の関係団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火焰街道博学連携プロジェクト</li> <li>・関原サイノカミ有志の会</li> <li>・表千家われもこう（企画展での呈茶席開催）・福島しあわせ運べるように合唱団・MOA美術館、長岡観光コンベンション協会、長岡鉄道模型クラブ、関原町サイノカミ有志の会、栃尾の手織物と絹文化研究会</li> <li>・関連書籍コーナーを設置してくれる図書館を館HPやSNSで紹介した。</li> </ul> <p>(5)国際博物館の日記念事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧料無料日の設定（直近の日曜日などに設定し、利用促進を図っている）</li> <li>・記念講座の開催</li> <li>・抽選による招待券プレゼント</li> <li>・友の会との連携による事業（(1)に記載）</li> </ul> <p>(6)リピーター割引の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・馬高縄文館、近代美術館、雪国植物園、越後丘陵公園など近隣施設や万代島美術館、自然科学館などの県内美術館博物館の半券を提示することで当館の企画展観覧料を2割引とし、連携を進めている。</li> </ul>								
<p>分 析</p>									
<p>令和3年度</p>	<p>(1)新型コロナにより、火焰街道博学連携プロジェクトは R2 年度で活動を終了した。また、様々な事業が実施できず、目標値を下回っている。</p>								
<p>計画期間全般 (H29～R3)</p>	<p>(1)他館との共同企画、長岡市・NSTとの実行委員会、新潟大学ミュージアム連携ネットワークによる展覧会を行うなど、連携事業を進めている。</p> <p>(2)友の会の活動としては、毎年ではないが、映画上映会も随時実施している。</p> <p>(3)企画展示室の空いている時期を利用し、R1 年度は鉄道模型走行実演会を開催し、1,710名が参加し賑わいを見せた。</p>								
<p>課 題</p>	<p>(1)新規団体の開拓…これまでの協力団体からの拡大</p> <p>(2)地域づくりに向けた連携強化…地域の文化団体と連携を図りながら、歴史を通じた地域づくりを支援</p> <p>(3)連携団体との広報協力体制の整備…友の会会員による地域別の広報活動協力</p>								
<p>取組に対する全体的自己評価</p>									
<p>令和3年度</p>	<p>評価できる <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">やや評価できる</span> やや評価できない 評価できない 判断保留</p>								
<p>計画期間全般 (H29～R3)</p>	<p>評価できる <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">やや評価できる</span> やや評価できない 評価できない</p> <table border="1" style="float: right; margin-top: 10px;"> <tr> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>R2</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>B</td> </tr> </table>	H29	H30	R1	R2	A	A	A	B
H29	H30	R1	R2						
A	A	A	B						

Ⅱ 評価委員会による検証・評価					
取組に対する全体的評価					
令和3年度	評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる	<input type="checkbox"/> やや評価できない	<input type="checkbox"/> 評価できない	<input type="checkbox"/> 判断保留
計画期間全般 (H29～R3)	評価できる	<input checked="" type="checkbox"/> やや評価できる	<input type="checkbox"/> やや評価できない	<input type="checkbox"/> 評価できない	<input type="checkbox"/> 判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<p>新型コロナの影響を最も大きく受けた分野の一つである。地域連携に欠かせないイベントや事業が新型コロナの影響で次々と中止となる厳しい状況下で、評価指標である共催事業等による連携団体数が令和2年度、令和3年度に目標数を大きく下回ったことは仕方のないことであろう。</p> <p>コロナ禍にあって、18回も続いている友の会主催の「マイ・コレクション・ワールド」を開催できたことや、開館当時から関原町有志の会と協働して継続してきた「サイノカミ」を実施したことは評価できる。</p> <p>厳しい状況も少しずつ回復してくるものと思われるので、多様な方法を用いて来館者の増加に結びつくように様々な分野の団体等と連携強化を図ってほしい。</p>				

## 活動評価表

機能・取組分野	情報発信／情報発信	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>当館の活動について、県民認知度を高める。</li> <li>本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>リピーターや新規来館者の拡大に向けた広報の展開。</li> <li>IT やマスコミを活用した情報発信の充実を図る。</li> <li>県外客誘致のための広報に努める。</li> <li>観光事業団体との連携を強化し誘客に努める。</li> </ul>	

### I 博物館による自己点検と評価

取組実績	○ [評価指標] 新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数																							
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>213/134/170</td> <td>274/137/186</td> <td>422/178/229</td> <td>364/201/259</td> </tr> <tr> <th>令和 2 年度</th> <th colspan="2">令和 3 年度</th> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>258/118/191</td> <td>200/100/150</td> <td>192/103/147</td> <td></td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績	実績	実績	実績	213/134/170	274/137/186	422/178/229	364/201/259	令和 2 年度	令和 3 年度			実績	目標	実績		258/118/191	200/100/150	192/103/147
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																					
実績	実績	実績	実績																					
213/134/170	274/137/186	422/178/229	364/201/259																					
令和 2 年度	令和 3 年度																							
実績	目標	実績																						
258/118/191	200/100/150	192/103/147																						
令和 3 年度	○ [評価指標] 館ホームページへのアクセス件数																							
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td>129,764</td> <td>118,482</td> <td>136,834</td> <td>130,771</td> </tr> <tr> <th>令和 2 年度</th> <th colspan="2">令和 3 年度</th> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>119,985</td> <td>100,000</td> <td>129,449</td> <td></td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	実績	実績	実績	実績	129,764	118,482	136,834	130,771	令和 2 年度	令和 3 年度			実績	目標	実績		119,985	100,000	129,449
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																					
実績	実績	実績	実績																					
129,764	118,482	136,834	130,771																					
令和 2 年度	令和 3 年度																							
実績	目標	実績																						
119,985	100,000	129,449																						
	<p>(1) 報道掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>達成率は新聞 96%、雑誌 102%、テレビ・ラジオ等 98%である。(ただし新聞は新潟日報と、直接取材・掲載依頼があった新聞社以外は確認できない。)</li> </ul> <p>(2) インターネット</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>HPアクセス数は目標を上回った。</li> <li>公式 SNS を活用し、定期的に情報発信した。</li> </ul> <p>R4. 4 月末時点での各フォロワー数は以下のとおり。() は、R3. 3 月末からの増減値</p> <p>ツイッター=12,897 (+750)、フェイスブック=1,856 (+70)、インスタグラム=1,854 (+167)</p>																							

<p>計画期間全般 (H29～R3)</p>	<p>(1) 報道掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞・雑誌・テレビ等は、ほぼ目標値を達成できた。</li> <li>・雑誌は、県内各地域のタウン誌や広告媒体（フリーペーパー）の他、県外の雑誌にも掲載され、目標値を上回っているが、R2以降廃刊の影響を受けた。</li> </ul> <p>(2) 館ホームページ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセス数は向上を継続している。</li> <li>・公式フェイスブック、ツイッター、インスタグラムを活用し、頻繁に情報発信を行った。R2年1月から SNS 用キャラクターを作成した。</li> <li>・情報セキュリティ訓練実施、SNS セキュリティ研修受講など情報危機管理体制の強化に努めた。</li> </ul>								
<p>分析</p>	<p>令和3年度</p> <p>(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、時期や内容によっては講座や体験プログラムについて、マスコミへの積極的な情報提供を控えた。そのため、新聞・雑誌・テレビなどで取り上げられる件数も減っている。</p> <p>(2) 雑誌については、コロナ禍によるフリーペーパーの休刊・廃刊があったことも掲載件数減少の一因である。</p> <p>(3) ホームページ訪問数の増加は、7月と11月にTBS「世界ふしぎ発見」で当館が紹介された影響が大きい。</p> <p>(4) SNS のフォロワー数は、昨年に比べ増加率は下がった。また、広報担当の人員削減により、SNS 投稿数も昨年度に比べ減少したが、1日平均1回は投稿し、定期的な情報配信を行った結果、少しずつではあるが着実に増加している。</p> <p>※R3年度（3月末まで）の SNS 投稿数（1ヵ月平均）・（ ）内は R2年度 Twitter：35件（78件） Facebook：30件（35件）、Instagram：30件（30件）</p> <p>計画期間全般 (H29～R3)</p> <p>(1) プレゼントパブリシティ（企画展招待券を活用した『読者プレゼント』など）を推進した結果、県内外の雑誌等が増加した。</p> <p>(2) 公式フェイスブック、ツイッター、インスタグラムや各種 Web サイトからの館ホームページへの誘導が、館ホームページアクセス数増加に結びついている。</p> <p>(3) SNS フォロワー数は着実に増加しており、アンケートから来館のきっかけとなっているケースがあることが確認できる。</p>								
<p>課題</p>	<p>(1) 企画展の内容に当てはまる雑誌等に積極的に情報提供する。</p> <p>(2) 館ホームページのアクセス数増加にともない、よりセキュリティを強化していく。</p> <p>(3) 博物館を含めた周辺地域での観光の提案</p>								
<p>取組に対する全体的自己評価</p>									
<p>令和3年度</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 評価できる    やや評価できる    やや評価できない    評価できない    判断保留</p>								
<p>計画期間全般 (H29～R3)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 評価できる    やや評価できる    やや評価できない    評価できない</p> <table border="1" data-bbox="1214 1823 1441 1930"> <tr> <td>H29</td> <td>H30</td> <td>R1</td> <td>R2</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> </table>	H29	H30	R1	R2	A	A	A	A
H29	H30	R1	R2						
A	A	A	A						

**II 評価委員会による検証・評価**

取組に対する全体的評価

令和3年度	評価できる    やや評価できる    やや評価できない    評価できない    判断保留
計画期間全般 (H29～R3)	評価できる    やや評価できる    やや評価できない    評価できない    判断保留
評価のコメント 及び今後の課題 方向性等の提言	<p>令和3年度における、報道掲載件数は、ほぼ目標通りの数値となった。館ホームページへのアクセス件数は前年度より増やし、かつ目標を大幅に上回った。前年度に引き続きコロナ禍により、例年より開館日数、PRの機会ともに減少傾向にある厳しい状況のなか、二つの指標で目標を達成したことは評価できる。</p> <p>計画期間中におけるいずれの年度も、おおむね目標値を達成している。</p> <p>報道掲載件数については、ニュースリリースの書き方、時期を含めた出し方を工夫し、マスコミへの積極的なPRを行い、今後も目標値を達成できるようお願いしたい。</p> <p>ホームページのアクセス件数については、情報の細かな更新、見やすさ読みやすさの改善を常に行い、引き続き目標値を上回るよう期待したい。</p> <p>昨今の国際情勢等に鑑み、ホームページのセキュリティー強化に努めてほしい。</p> <p>ツイッター、フェイスブック等SNSでの発信をさらに強化し、二つの指標の数値増並びに来館者増につなげてほしい。</p>

## 活動評価表

機能・取組分野	管理運営	経営企画課
取組方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。</li> <li>目標の実現に向けた効率的な運営を行う。</li> </ul>	
主な実現方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価・外部評価の実施</li> <li>評価結果の的確な反映によるPDCAサイクルの確立</li> </ul>	

I 博物館による自己点検と評価																																																	
取組実績	<p>○ [全体収支比率]</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td>平成 29 年度</td> <td>平成 30 年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td><b>実績</b></td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td><b>5%</b></td> <td>5.6%</td> <td>7.8%</td> <td>4.6%</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td colspan="2">令和 3 年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4.4%</td> <td><b>5%</b></td> <td><b>4.3%</b></td> <td></td> </tr> </table> <p>※全体収支比率・・・観覧料、使用料を含む全体の収入金額を人件費及び再配当・歳出予算の決算額で除して得た数値をパーセント表示した比率</p> <p>○ [評価指標の達成率]</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 28 年度</td> <td>平成 29 年度</td> <td>平成 30 年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td><b>実績</b></td> <td>実績</td> <td>実績</td> <td>実績</td> </tr> <tr> <td><b>67%</b></td> <td>80%</td> <td>80%</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>令和 2 年度</td> <td colspan="2">令和 3 年度</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績</td> <td>目標</td> <td>実績</td> <td></td> </tr> <tr> <td>61%</td> <td><b>100%</b></td> <td><b>67%</b></td> <td></td> </tr> </table>	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	<b>実績</b>	実績	実績	実績	<b>5%</b>	5.6%	7.8%	4.6%	令和 2 年度	令和 3 年度			実績	目標	実績		4.4%	<b>5%</b>	<b>4.3%</b>		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	<b>実績</b>	実績	実績	実績	<b>67%</b>	80%	80%	74%	令和 2 年度	令和 3 年度			実績	目標	実績		61%	<b>100%</b>	<b>67%</b>	
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																																														
<b>実績</b>	実績	実績	実績																																														
<b>5%</b>	5.6%	7.8%	4.6%																																														
令和 2 年度	令和 3 年度																																																
実績	目標	実績																																															
4.4%	<b>5%</b>	<b>4.3%</b>																																															
平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度																																														
<b>実績</b>	実績	実績	実績																																														
<b>67%</b>	80%	80%	74%																																														
令和 2 年度	令和 3 年度																																																
実績	目標	実績																																															
61%	<b>100%</b>	<b>67%</b>																																															
令和3年度	<p>(1) 新型コロナウイルス感染症対策に万全を期すとともに、博物館運営方針（H29～R3）に沿って活動に取り組んだ。</p> <p>(2) 現運営方針に基づくPDCAサイクルを継続した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動評価表の作成、及び経営会議での議論等による自己評価</li> <li>外部評価委員による検証と評価</li> <li>これらを踏まえた改善と進捗管理</li> </ul> <p>(3) 月各1回の課内会議、経営会議、全体会議を連動させて進捗管理に努めた。</p> <p>(4) 施設管理について、不具合が発生した設備・機器等の更新・補修を実施した。</p> <p>(5) 来館者の安全・安心確保、要望聴取に関しては、従前の日常的対応（業務日報・アンケート・案内説明員研修等）を堅持した。火災などに備え防災訓練（年3回）、AED講習等を実施した。</p>																																																

<p>計画期間全般 (H29～R3)</p>	<p>(1) 博物館運営方針（H29～R3）に基づき、「当面の課題」や新型コロナウイルス感染症対策に取り組み、活動全般を進めた。</p> <p>(2) 現運営方針に基づくPDC Aサイクルを継続した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動評価表の作成、及び経営会議での議論等による自己評価</li> <li>・外部評価委員による検証と評価</li> <li>・これらを踏まえた改善と進捗管理</li> </ul> <p>(3) 月各1回の課内会議、経営会議、全体会議を連動させて進捗管理に努めた。</p> <p>(4) 施設管理について、不具合が発生した設備・機器等の更新・補修を実施したほか、新聞投書を通じた意見提案や館ホームページ・ハッキング事案に対しても適切な対応に努めた。各日の管理責任者を「管理主任者」として明示し、管理体制を徹底した。</p> <p>(5) 来館者の安全・安心確保、要望聴取に関しては、従前の日常的対応（業務日報・アンケート・案内説明員研修等）を堅持し、防災訓練（年2～3回）等による深化を図った。</p>
<p>分 析</p>	<p>令和3年度</p> <p>(1) 上位指標の中では、新型コロナ対策として臨時休館や入場制限の実施などにより、観覧者等の減少傾向が続いた。</p> <p>(2) これまでの館運営の基本的な仕組みを継続、定着を図ることで、満足度は昨年度並を維持した。</p>
<p>計画期間全般 (H29～R3)</p>	<p>(1) 上位指標の中では、R2年度から新型コロナ感染拡大を主要因として、観覧者数が大きく落ち込んだ。</p> <p>(2) 企画展については、R1年度までは4回実施していたが、R2年度は3回、R3年度は2回となり、観覧者数への影響が特に大きい。</p> <p>(3) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きく、目標実現のための効率的な館運営に支障を来している。</p> <p>(4) 引き続き目標の設定・共有を図りながら進め、これまでの館運営の基本的な仕組みを継続し定着を図っていく</p>
<p>課 題</p>	<p>(1) PDC Aサイクルを定着させ有効に機能させる。</p> <p>(2) 入館者数を増やすことによる観覧料収入の増加、経費の節減</p> <p>(3) 計画的な設備・機器等の更新・補修の実施</p> <p>(4) 新型コロナウイルス感染症対策と目標達成のための効率的な館運営の両立</p>



# 付帯資料



# 令和3年度第1回新潟県立歴史博物館評価委員会 次第

令和3年10月18日(月)

14:00～

新潟県立歴史博物館研修室

1 開 会

2 議 事

(1) 令和3年度評価について

(2) 令和3年度事業概要について

3 閉会

---

○配付資料

【資料1】新潟県立歴史博物館の評価委員会について

【資料2】令和3年度委員会スケジュール

【資料3】入館者状況

【資料4】学芸・交流普及事業概要

令和3年度第1回評価委員会議事録

令和3年10月18日 14時～16時

新潟県立歴史博物館研修室

出席 田中委員長、山本副委員長、委員 A、委員 B、委員 C、委員 D  
文化振興課長、富沢主任、斎藤館長、副館長、学芸課長、種岡専門研究員、西田専門研究員

事務局

これより令和3年度第1回評価委員会を開催する

文化振興課長 挨拶大意

8月に提出された報告書では、コロナ禍での館の運営への工夫、SNS 情報発信など高い評価をいただいた。課題として、料金徴収方法の変更により展示活動への県民のアクセスが消極的になったこと、感染症の影響で館活動が十分に県民に届かなかったことなどの指摘をうけ、結果として「やや評価できる」との評価であった。昨年度の経験を感染症終息後にいかし、魅力ある博物館として存在感を高めていくため館とともに改善に取り組んでいきたい。

委員からは幅広い視点からの提言や評価をお願いしたい。

館長 挨拶大意

新たに山本委員を迎え、また新しい視点で館への提言評価をいただきたい。今年は評価委員会としては11回目となる。予算の関係で昨年度は企画展が3回、今年は2回しか開催できなかった。組織についての話がでていますが博物館としてできることを考えていく。県財政からも収入増を考えなくてはならない。企画展が2回となっても、予算をかけないテーマ展を2回開催し、収入減を抑え、入館者を少しでも確保したいと考えている。高い見地から厳しい評価、温かい提言をいただければと思う。

委員長に田中委員、副委員長に山本委員を選出

委員長

新たな委員を迎えたので、各自自己紹介をお願いします。

(委員自己紹介)

事務局より資料の説明をお願いします。

事務局

今年度の委員会の流れを説明する。今年度は5か年計画の最終年度に当たるため、通常の前年度の評価に加えて、5か年分の評価を行うこととなる。また来年度以降の新5か年計画に基づく評価項目について

でもご意見をいただく。そのため、第1回の検討会は例年のような中間報告ではなく、新たな評価項目のご意見もいただく場となる予定である。

次年度以降に向けての提言については、次回の委員会までに伺えればと考えている。スケジュールについては、第1回検討会を2月から3月、第2回の委員会を5月、報告書案を検討いただく第2回の検討会を6月から7月に行い、8月に報告書をご提出いただく予定にしている。

委員長

以上の説明について、何か質問は？

委員 B

委員長は前回の5か年のまとめの時は参加していたか？

委員長

最初の年がそうであったかと思う。

委員 B

このスケジュールでいままでに加えて、作業が増えるが大丈夫であろうか。

委員長

今回は3年度についての評価資料と、5年分まとめた資料が出てくる。

委員 B

それに評価項目についての検討も入るとのことだが、それだけでも時間がかかりそうだ。

委員長

検討会では中間報告よりも、評価項目検討の時間をとるようにするべきか。回数は増やせないと思うので、会議時間を延ばす対応もありうるかもしれない。

委員 B

効率的な運用をスピード感をもってお願いしたい。

館長

原案作成をお願いするのではなく、たたき台をあらかじめお送りして、この場では討議だけにするなど効率的に進めるよう努力したい。

副委員長

検討内容は、評価項目の部分か。

事務局

項目の評価を判断するための指標も検討対象になる。

副館長

観覧者数、観覧料収入の資料について説明する。18年度より直営となった。全体的には観覧者、観覧料収入ともに減少傾向である。その中で平成26年度は親鸞展があり観覧者が大きく伸びた。また戊辰150年展を実施した平成30年度は、共催の福島、仙台での観覧者を含めているため利用者数が大きく伸びている。令和2年度は企画展が3回となり、また企画展、常設展の観覧料徴収方法が変更となった。そのため2年度から集計の方法が異なっている。そのため2年度と3年度は単純比較ができる。9月末現在の比較では、3年度は常設展観覧者が増えている。一方、企画展は1回減り、人数も減っている状況である。2年度の企画展観覧者の半分ほどは夏の戦後50年展の観覧者であった。今年の日蓮展は昨年夏の半分ほどであった。

委員長

戊辰戦争の時は福島・宮城会場の観覧者が入っているということだが、ほかの年度でも同じようなケースがあるのか。また、5か年の評価をするうえで、別会場のデータが入るとほかの年度と公平なスタンスで見ることができないと思うのだが、その数字は出せるか。

館長

実行委員会の展覧会なので利用者数に他館の数値が入っているが、入館者数にはカウントしていない。観覧者数でみれば当館の実績がわかるようになっている。

委員長

次回は加算分がわかるようにしてほしい。

事務局

利用者数は出前講座のような館外の活動の参加者を含んでいる。展覧会だけではない。

副館長

平成30年度の利用者164,556人の中には福島県博、仙台市博の46,582人が入っている。

館長

利用者の定義をきちんと示したうえで数字を提出する。他会場の入館者を参考値として添えることになると考える。

また、事前に数字を提示し、会議の場では質問が出ず、結論に至れるように工夫したい。

委員 B

直営にした理由は何か。

副館長

公立施設の見直しがあり、指定管理者制度が導入された時期であったことから、管理方法について検討が行われた。当館、近代美術館などについては管理委託ではなく、直営とする判断となった。

文化振興課長

指定管理を 18 年度から行うことになっていたのに、検討が行われたが、結論としては当面は直営でいくが、部分的に指定管理にすることも含めて検討は続けるという補足がついたうえでの直営という判断であった。

委員 B

今後については直営か指定管理か、今後の 5 か年を考えるうえで大きい問題だ。

委員 D

2 月の段階では方針は決まっていそうか。

文化振興課長

今の段階では結論が出ているかどうかわからない。

委員 B

議論したことが水泡に帰す恐れがあるかもしれない。

館長

どうなるかわからないが、博物館単独の活動としては変わりはない。運営方法、予算については変更があるかもしれない。今の状況であるべき数字を検討していただくということになると思う。

委員長

今、議論をして評価指標を作っても、もしかすると 3 年間で終わってしまったらどうなるのかという危惧や不安は持つ。

できる範囲でなるべく情報は伝えてもらい、進めていきたい。

資料 4 について説明をお願いします。

学芸課長

企画展については、今年度は企画展 2 回、テーマ展 2 回となっている。テーマ展は昨年拡大常設展として開催したもので、観覧料は常設展の扱いであるが、企画展示室を使用していることから、企画展事業に含めている。

ワンポイント解説は昨年度は感染症のため休止期間があったが、今年度は当初から行っている。夏季の中学生ボランティアによるガイドが行えなかったため、代替として初の取り組みとして研究員による常

設展の見どころガイドを行った。研究実績については年度末に数字が増えると見込んでいる。

委員長

以上の説明について、質問はあるか。

常設展の見どころガイドを行い、6回で25名ということだが、告知方法は？

学芸課長

SNS,ホームページによる。大々的には行わなかった。概ね1家族程度を想定していた。

副館長

時間を決めて、集まってもらい実施した。

館長

ちょうどオリンピックが始まったところで、感染がかなり懸念される状況であった。ワンポイント解説のように一か所にとどまて行わず、インカムを使用して離れても聞けるようにし、人を集めすぎないことを配慮しなければならない時期だった。事前PRをすればよいというものではなかった。

委員長

確かに一番ピリピリしていた時期だった。

館長

まだわずか一か月前の状況だ。

委員 B

修学旅行でくることが多いようだが、長岡市でも県外に出られないので、教育旅行にこうした施設を利用しようという動きがあるが、そのような団体が来た時に何か館として対応しているのか。

種岡

修学旅行についても可能な限り案内解説を行っている。先方に選択肢を提示して選べるよう心掛けている。

委員 D

連携した展覧会について利用者にカウントするという話であったが、日蓮展についても同様か。

事務局

そうである。

委員長

巡回する場合は利用者数に含めているということだが、資料貸し出しの場合はどうか。

事務局

カウントしない。

巡回でもパッケージとなっているものはカウントしない。あくまで共同企画した展覧会のみである。

委員 C

利用者に他館の観覧者が入っているのは 30 年度と今年の親鸞展だけか。

事務局

ほかにもある。

委員 C

連携した展覧会の他館観覧者数は示していなかったのか。

事務局

これまではそうである。

委員長

ダブルカウントされている感がある。

委員 C

館外活動は出前講座、共催展覧会のほかにあるか。

事務局

他会場で行ったシンポジウム、移動展覧会がある。

館長

当館の経営資源を何らかの形で使って、集客につなげている。そうした努力を活動としてプラスするという考え方だ。

種岡

交流普及事業について説明する。講座、出前講座については、昨年度とは異なり、従来の形に戻している状況である。人数は減っているが、定員を少なめに設定しているためである。講座は研修室では 18 名としている。体験コーナーも大幅に少なくなっている。以前は体験コーナーで人数制限なしで行っていた。現在は研修室で 20 名を上限に行い、オーバーした場合は参加希望者に待っていただくようにしている。また以前は土日祝日におこなっていたものを、日曜のみとしている。

受け入れ団体は、昨年度は大幅に減ったが、3 年度は徐々に回復している。傾向は変わってきており、県

外の団体は減った。県内に修学旅行を振り替えた学校が多い。近隣ではなく村上、新発田、胎内、上越、糸魚川など普段これまで来ていないような学校が来ている。学校から直接でなく、旅行会社を通じての予約が多い。学校にはメニューを提示して、次回も利用してもらえよう心掛けている。県外の団体は全くないわけではないが、魚沼など市の観光課を通しての予約が増えている。

委員長

以上について質問は？

副委員長からは近代美術館での経験から何かあるか？

副委員長

旅行会社からの予約や定員の制限など同様であった。講堂の定員を 2 割程度にしていた。そのため数字による評価が難しい。出前授業の説明があったが、勤務校では今週末から平時に戻していく予定である。外部講師や給食試食会の実施、PTA 活動の復活など、切り替えを行う時期となっている。

委員長

近代美術館の学校籍の職員との情報交換はあるのか。

種岡

昨年度は感染症のため、まったくなかったが、その前はあったと聞いている。

館長

旅行者からの見学依頼の話があった。ここで好印象をうけて、再び依頼が来るということがポイントだと考える。学校教育に寄与するのが博物館の使命の一つだと思う。どこかで一泊をして博物館や美術館を見ていくことで修学旅行の実を果たせたと評価したから、業者からの予約が増えたと考えられるので、これをチャンスととらえたい。

委員 C

そうしたことに SNS は関与しているか。

種岡

SNS より、直接来館した生徒や教員がよい場所だと感じたことが大きいと考える。

委員 C

来館者や業者の口コミのほうが大きいということか。

種岡

そう考えている。

委員 B

旅行関係者や教育関係者からこの博物館は意外に知られていない。雨でも対応ができ、広さなど利点をもっと PR するとよい。常設展は、小さな子供たちのバス旅行などの選択肢の一つとしていいのではないか。

委員 A

中学校では社会科などの教員の団体があるが、そのような団体との定期的な意見交換、連携などはあるのか。

種岡

昨年度はできなかったが、研修で利用してもらうこともある。

館長

教育事務所主催の会合に出かけていき、教員にアピールすることも行っていた。

委員 A

県内でも今まで来ていなかった地域からの利用があるとのことなので、チャンスとして、いろいろなルートで働きかけるとよいと思う。

委員 D

コロナ終息後、それがなくなってしまうよう、つなぎとめる必要がある。教員も 3 年ほどで転勤してしまい、熱心な先生が変わってしまうと利用してくれなくなる。

委員 B

コミセン、敬老会など出かけたくても、なかなか出かけられない人々がいる。小旅行を売り込んでいったらどうかと思う。

館長

日本博の関連で手話、英語のガイドツアーを行った。展示解説のツアーを地道にやっていると評判を呼んでいくと思う。

委員 C

楽しさを発信してもらおうとよい。

委員長

戊辰展のように、類似した歴史を持った地域同士の交流連携ツアーなど、遠くだけでなく近くに目をとめて、そこからアフターコロナを見据えていければよいと思う。

次回日程については事務局に調整願う。

委員 B

次の評価項目の検討も入るか。

副館長

実際のところは評価の継続の関係もあり、全項目を変えることはない。どうしても入れたほうが良いと考えられる項目がある場合、うまく評価できない項目があればいくつかを入れ替える程度ではないか。

委員長

例えば、収集保管で評価項目が、目録刊行とデータベース公開件数となっているが、収集保管事業の核心ではない。企画展示室の事業数も以前から議論になっていた。

委員 B

企画展の満足度についても以前から疑問に思っている。

事務局

以上で、閉会とする。

# 令和3年度第2回新潟県立歴史博物館評価委員会 次第

令和4年6月3日(金) 13:00～  
まちなかキャンパス長岡 501 会議室

1 開 会

2 議 事

- (1) 令和3年度評価について
- (2) 令和4年度事業概要について

3 閉会

---

○配付資料

【資料1】H29～R3 活動評価表(事前配布)

令和3年度第2回評価委員会議事録

令和4年6月3日 13時～15時

まちなかキャンパス長岡 501号室

出席 田中委員長、山本副委員長、大塚委員、金山委員、内藤委員、湯浅委員  
樋山課長補佐、渋谷係長、神田主任、齋藤館長、反町副館長、山田課長、種岡専門研究員、西田  
専門研究員

事務局 これより令和3年度第2回評価委員会を開催する。

文化課課長補佐挨拶骨子

新型コロナウイルス感染症のため集客面で厳しい状況が続いている。その点で評価も難しいかもしれないが、よろしく願いしたい。県では今年度より新たに観光文化スポーツ部を立ち上げ、これまで2つのあった文化担当課を統合して、体制を強化することとし、文化課ができた。魅力ある新潟をめざしていきたいと考えている。博物館についても魅力を広く発信していくことが求められているので忌憚のないご意見をいただきたい。

館長挨拶骨子

過去2か年は厳しい状況であり、新年度に入っても来館者の流れが元に戻っていない。今回は昨年度および過去4年間を合わせた総合評価をいただく。評価そのものだけでなく、その過程でいただくご意見が貴重であると考えている。

委員長

今回の資料は令和3年度の評価と過去4年間の評価がまとまっているが、前回の検討会の記憶では、今回は5か年分の評価はなくなると理解していた。変更の説明を願いたい。

事務局

評価項目を新しい年度に向けて見直し策定することはしないということは決定していた。まとめの評価については今年度、改めて副館長と協議し、あくまで5か年計画としてやってきたので、やはり5か年のまとめをすべきであるとの結論となった。ご理解いただきたい。

副館長

引継ぎに5か年の評価を実施するとあった。

委員長

他の委員はどうか。

委員B

この先の5年間の評価項目について1年遅らせるということは了解していた。

館長

次の5年については最初の1年は現在の項目で評価し、その次の4年間は新たな項目での評価となることについて、委員のご了解を得ておきたい。

事務局

令和4年度の評価委員会が開催されるときに、次の5か年の評価方法について改めて提案することとしたい。

委員 B

5年単位で評価することは確定事項なのか。

事務局

中長期的目標を持つことは必要だと考えており、すでに2回その考え方でやってきたところである。

委員 B

今回は3年度の評価と5か年分の評価をそれぞれに行うのか。

事務局

前回は個別ではなく、まとめたコメントがなされていた。

委員長

単年度と5か年の2つの観点でコメントを記すということだ。

委員 B

5年前の報告書はみることができるか。

事務局

用意する。

委員長

資料の説明をお願いします。

事務局

収集保管については、3年度について、1月の検討会での状況と変わりなく、大きな問題もなく指標をクリアしている。自己評価は評価できるとしており、過去5年間についても指標を達成しているので、評価できるとした。

委員長

昨年度についても、過去5か年についても大きな事故もなく、順調に推移しているとのことだ。

なお、本日の作業としては委員会で評価を決定し、コメント執筆者の割り振りを行う。

収集保管について質問はあるか。

(なし)

事務局

常設展示は、3年度については指標をクリアしている。また過去5年間については常設展示の活用のためいくつか新たな試みも実施してきた。数値としては出ないが、残念ながら長期的な常設展示の更新には踏み出せないでいるところであり、単年度、5年間について、やや評価できるとの自己評価となっている。

委員長

何か意見はあるか

委員 B

評価指標はクリアしている。何をもって評価するのかという問題だ。個人としては評価できるでよいと思う。

委員長

委員会としての評価は後に改めて行いたい。

館長

取り組みの目標にないものを考慮するのはなぜかということについてだが、常設展と企画展の料金が分かれたことにより、改めて常設展の人気があることがわかり、常設展の価値を高めることがベースとなる生命線と感じている。博物館としての努力が今一つ必要という考えでの自己評価となっている。

事務局

企画展示は指標の二つはクリアできている。企画展を2回と予算がない中で自前の展示をテーマ展示ということで2回行った。5か年のこれまでの自己評価はBのほうが多いが、委員会からはA評価をいただいております、全体としては自己評価を評価できるとした。

委員 D

企画展2回に加えて、ほかに6回企画展示室を使ったということか。

事務局

そうである。

委員 B

常設展の拡大展示というのはどれか。

事務局

秋と冬のテーマ展示がそれにあたる。

館長

着任した4年前は企画展事業費として、2200万ほどであった、昨年は1500万ほどで、減っている。知事の掲げる県民サービスの拡大という中で、博物館が何ができるかという企画展示室を空けないという努力が求められる。ありものの収蔵品で日頃の研究成果を展示するという学芸としては大きな負荷のかかることを行っている。秋の展示は民俗の担当者が積み重ねてきたものを自前で資料を運搬して展示した。冬の展示も研究を積み重ねたもので行った。520円の常設料金で博物館の研究成果も見れるということだ。

副委員長

秋と冬の展示については人数が出ているが、それ以外について記載がないのはどうしてか。

事務局

カウントができないためである。

委員 D

テーマ展示の負担については了解できているのか。行き詰ってしまわないのか。

事務局

ネタ切れになることはありうる。他の機関との連携が必要になってくるかもしれない。

委員 D

連携には予算が必要だが。

事務局

予算がないことについては、マスコミがつかないという点も大きい。企画展はいつもは新潟日報社とNSTがついてPRをしてもらっているが、テーマ展ではそれができない。

館長

基本的にはチラシ、ポスターの予算もないということだ。

大規模なテーマ展示はネタ切れの懸念があり、展示室全体を使わないものも考えていかねば続かない。連続性を持たせるような工夫も必要だろう。

常設展の入込みの確保にもつながる。

委員 D

予算がない中で展示をやっていることがいいのかという考えもある。もっと予算をつけるべきだという意見も必要かもしれない。これで評価できるとしてしまうと、当たり前になってしまうかもしれない。評価する側としても迷うところだ。

委員 C

テーマ展示を始めたのは令和 2 年であったか。

館長

20 周年の時である。感謝キャンペーンを行う中で、この一品ということで、各学芸員の成果発表に代えて行った。その時は拡大常設展という名称であった。

委員長

学芸スタッフの専門領域は歴史、考古、民俗、博物館学だったとおもう。その点からすると展覧会のテーマもまんべんなく行われている。

館長

科研費をとれる県内の博物館は当館だけであり、その意味で専門性を持っている。山梨との共同開催であった日蓮展はコロナの影響で、開場式も行われず、団体見学もキャンセルとなり、残念な結果であった。

委員長

次に調査研究について説明をお願いします。

事務局

調査研究の今年度実績は論文等執筆件数が振るわず、やや評価できるとした。また 5 か年についても B 評価が 3 つあり、目標値に達していないことからやや評価できるとした。

委員 D

前年度は学会開催が行われず発表機会がなかったという事情があったが、今年度は調査を進めることができず、成果発表に至らなかったということか。

事務局

そのような事情も原因の一つと考えられる。

委員長

おふだ展のほかにも研究成果が刊行された事例はなかったか。

事務局

図録として日報事業社から刊行されたものはある。

委員長

展示図録は成果に挙げられているか。

事務局

論文等執筆件数に含めている。

委員長

では、学校教育に移る。

経営企画課長

学校教育について、県内小学校の来館率は指標を満たすことができなかった。新型コロナに対応した見学方法など工夫は行っているが、校長会での周知ができないなど、目標に至らなかった。新規プログラム、体験満足度については目標を満たしている。期間全体については、新たなプログラム作りに努力しているところだが、小学校数自体が減少していることから、利用率も減少傾向にある。単年度については満たしているところもあるのでやや評価できる、全般については、達成状況から評価できるとした。

委員長

昨年度をやや評価できるとした理由をもう一度確認したい。

経営企画課長

効果的な広報ができなかったことがある。

館長

コロナ禍において当初、学校側も受け入れ側も非常に緊張感があった。昨年度になりやや緊張が解け、特に県内中学校の修学旅行利用が増えた。下越の中学校が上越の水族館を訪れ一泊して当館によるというコースもあった。

種岡

県外の利用は減ってきてはいるが、広報の仕方を工夫した。東京から団体の教員が視察に来たときに、実際の小学生向けに行っている解説を聞いてもらうことで利用希望が増えた。

校長会での広報は昨年、一昨年度は開催されなかった。今年度は開催されたが参加していない。理由は広報担当者の削減で人的余裕がなかったこと、校長よりも担任に子どもたちに必要なものを直に知ってもらう方が重要と考えるためである。

#### 館長

高校生も増えた。村上高校、新潟からは新潟商業、北越高校などがきた。中学生以下は収入にはならないが学校教育も使命と考えているので、収容能力を超えないかぎり断らないように言っている。そのため館員に負担もかけた。

#### 副委員長

近代美術館では教頭会にシフトしている。校長は一人別室にすることが多いが、教頭は教員の扇の要の位置にいて、教員への働きかけがしやすい。また校長会にはさまざまな人がきて情報が多すぎて、伝わりにくい。

#### 委員長

つぎに社会教育について。

#### 経営企画課長

講座満足度はクリアしている。ボランティアには熱心に参加していただいているが、活動自体を減らさざるを得ない事情があった。評価としては、単年度、期間全般ともに評価できるとした。

#### 館長

ボランティアについてはコロナ禍において、一般来館者との対応など対人関係については禁じた事情がある。

中学生ボランティアは去年の夏はオリンピックのころの感染状況で、おそらく父兄からのストップがかかって辞退となった。

#### 事務局

学術面の連携では項目として、地域史研究ネットワークと他機関との連携事業が項目となっている。3年連続で、ネットワーク事業について達成ができていないことからやや評価できるとした。

#### 委員長

特になければ、次に進む。

#### 経営企画課長

地域づくりの連携について、連携件数については残念ながら達していない。コロナ前は様々な事業が行えていたが、その後は厳しい状況が続いている。単年度についてはやや評価できる、全般についても総合的に判断してやや評価できるとしている。

#### 委員会

リピーター割引について、効果はどの程度か。

事務局

把握できていない。

委員 D

昨年度ぐるっとミュージアムというものがあつた。公立館については、あまりメリットがなかつたように聞いているがどうであつたか。

1000 円のパスポートを購入すると、全館無料となる館と、常設のみ半額となる館があつた。私立の博物館は入館者、収入ともによかつたようだ。

文化課係長

コロナ禍で私立の文化施設の支援という意味で制度設計したものであつた。今年度も実施の予定である。

館長

思ったよりは利用が多いという印象を受けた。来館のきっかけとなるならばありがたい。

経営企画課長

当館の利用実績は 320 であつた。

委員長

続いて情報発信について。

経営企画課長

積極的情報提供を控えた事情があつたり、フリーマガジンの廃刊休刊などがあつたため、実績が下回つたものがある。SNS についてはフォロワーの増加がみられる。概ね目標を達成していることから評価できるとした。

委員 D

情報発信担当者が減となつたとのことだが、担当者の負担増は問題ないのか。

経営企画課長

学校対応をしながらのことでなんとかやっている状況である。

館長

SNS の発信には積極的に取り組んでおり、県の出先機関としてトップの実績であつた。人員削減によりこれまでと同じようにできないのは仕方ないので、できる範囲で行うよう指示した。個人のスキルに起因するところも大きく、担当者が変わるとどうなるかわからない。

委員長

委員会の評価は行わないが、管理運営についての説明をお願いします。

副館長

管理運営について結果のみ報告する。全体収支比率は若干低くなった。休館、入場制限などがあり観覧料が減少したのが原因である。指標達成率は昨年度よりやや上昇した。新型コロナウイルス完成小拡大の影響を大きく受けているため、感染症対策と目標達成のための効率的な館の運営の両立が重要と考えている。

委員長

質問がなければ、総括について説明をお願いします。

副館長

総括については、利用者数は大きく落ち込んでいる。一方、満足度については水準を維持できており、館活動の成果と考えている。

評価については、達成できなかった指標もあることから令和3年度、期内の評価ともやや評価できるとした。

委員 A

利用者総数と観覧者数の違いは何か。

副館長

観覧者数は企画展など展示を見た人の数であり、利用者数は講座、体験などを含めた数を含めたものである。

館長

たとえば3館連携で行ったときは他館の入館者も含めている。令和2年度の利用者が多いのはそのためである。

委員 A

先ほどの情報発信についての数字は、新聞、テレビ、雑誌の順とみてよいか。

事務局

そうである。

委員長

これより、評価原案を委員で検討する。

(博物館員、文化課員退席)

討議

委員長

以上で議事を終了する。

事務局

本日の議題には今年度事業内容の説明も予定していたが、時間となったので、ホームページなどでご確認いただきたい。

館長

県民目線と専門の立場から、引き続きご意見を頂ければありがたい。

散会





新潟県立歴史博物館評価委員会報告書

発行日： 令和4年8月26日

編集発行： 新潟県立歴史博物館評価委員会